



# 長野県看護大学学報



## スタートアップセミナーがはじまりました

今年度から新たに始まったスタートアップセミナーでは、4月に入学してきた1年生が大学での主体的な学びを深めるべく、自分たちでテーマを決め3か月間グループ活動に取り組みました。平成28年7月26日(火)の午後の時間を使って、成果発表会を行いました。



大学の学びのスタートとして始まったスタートアップセミナー。最初はみんなの意見をまとめること、同じ課題に向かうことの大変さを体験しました。しかし期限も近づいてくると、方向性も定まり、みんなが自分のできることを率先してやり、いろいろなアイデアとみんなの力の総和で発表できる形をつくることができました。

松崎 文さん (看護学部1年生)

初めに大学での授業やレポートの書き方についての話がありました。高校までの学校生活との違いを感じ、改めて大学生への期待と緊張を持ちました。グループ学習ではたくさんの先生方にご指導いただき各グループが様々なテーマを持って活動していました。全グループの発表を見ることは出来ませんでしたが、これからの駒ヶ根での生活に役立つことも多く興味を持って発表を聞くことができました。初めてのグループ活動でグループのみんなとたくさん相談し合いながら楽しくできました。

柳澤 結衣さん (看護学部1年生)



スタートアップセミナーでは、グループメンバーそれぞれの人間性、強みが異なっていたため、より良い発表にできました。得意分野ではそれぞれの力を発揮し、一方の苦手分野においてはお互いを補完し合うことで、最後までやり遂げることができました。一から何かをする大変さを学び、とても良い経験になりました。

小林 優希さん (看護学部1年生)

# 平成28年度 国際看護実習報告

サモアは自然が豊かで葉で編んだ籠やマット、家などの建物にも植物が多く使われています。玄関付近にサンゴの欠片のようなものが敷き詰められている家もありました。私は、サモアの看護師が在宅看護で海水を使っていたことが印象的でした。サモア人は、自然を生活など様々な場面に用いる知識や技術を多く持っている人たちだと感じました。  
熊谷 里奈さん (看護学部3年生)



初めは、この実習を乗り越えることができるのか不安な気持ちもありました。しかし、実習を終えた今、サモアで経験したことや出会った人たちとの思い出が強く印象に残っていて、私の頑張る原動力となっています。また、現地の看護師さん達は私たちの質問に真剣に答えてくださり、沢山の学びを得ることが出来ました。  
塚田 佳奈子さん (看護学部3年生)



サモアでの生活は見るもの聞くもの全てが新鮮で、とても魅力的でした。国際看護実習で学んだ多くの事は私にとって大切な宝物です。サモアの人々はとても親切で、手厚く私たちを歓迎して下さり、先輩や先生方がつくり上げてきたNUSとNCNの強い絆を感じる実習でもありました。支援して下さった皆様には感謝の気持ちで一杯です。  
丸谷 由紀さん (看護学部3年生)

7月31日から8月14日までの2週間、サモアで国際看護実習をしました。現地では2つの病院で実習をさせていただくことができました。途上国のサモアと先進国の日本人とで提供される医療の違いや、それぞれの国における文化的背景の違いから、サモア人と日本人とで抱える疾患や医療に対する価値観の違いを学ぶことができました。また、それを受け入れて異文化に溶け込むことの難しさを経験することができた実習となりました。このような学びや経験ができたのは、現地や日本からの多くの支えがあったからだと思います。ありがとうございました。この学びや経験を今後発信していけたらいいなと思っています。  
谷口 夏美さん (看護学部3年生)



## 新任教員紹介

今年度5月以降、2名の教員が着任いたしました。どうぞよろしくお願い致します。



金子 さゆり  
基礎看護学分野教授



西脇 伸也  
認定看護師教育課程  
感染管理分野専任教員

## 揚州大学からの客員研究員

平成28年9月から12月まで、中国の江蘇省にある揚州大学じょうしゅうだいがくより常淑文さんえんえん、袁媛さん、2名の客員研究員をお迎えしました。本学滞在中、研究活動だけでなくフィジカルアセスメントの授業、卒業研究発表会などにも参加して交流しました。



向かって右が袁さん、左が常さん

# エセタ・ホープ先生(前サモア国立大学看護学部長)を偲んで

本学が交流協定を結んでいるサモア国立大学の前看護学部長エセタ・ホープ先生が昨年5月7日にご逝去されました。先生は、サモアと本学との交流の基盤づくりにご尽力くださいました。本学においても7月12日に学生、教職員が集まり、エセタ先生への感謝の会を行いました。今回、エセタ先生を偲びメッセージを寄せていただきました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## さようならエセタ先生

サモア国立大学(NUS)応用科学部長エセタ・ホープ先生の5月7日のご逝去から半年になりますが、いまだに信じられない思いです。NUSとの交流に携わった私たちにとって、あまりにも大きな存在との早すぎる別れでした。2001年の交流開始以来、常に新しい知識や考え方に強い興味を持ち、目を輝かせて議論されました。2002年に始まった子どもの生活習慣に関する共同研究でも中心的な役割を果たし、国際看護実習の本学学生も毎回暖かく気遣ってくださいました。

当初は若手の講師でしたが、能力と努力を買われて要職を歴任し、応用科学部長になってからも、“心は看護師たちと共に”をモットーに、事務局長としてサモア看護師協会の運営に尽くされました。常に真っ正直に発言し、それ以上のことを実現してこられました。本学の大学院への留学の希望が本学の言語的障壁に阻まれ、お互いに素晴らしい刺激を与え合う機会が失われたのは何とも残念でしたが、また会う機会は何度でもあると信じていました。実際、また一緒に座って仕事がしたいと書いてくださった先生が3か月後に旅立られるとは思ってもいませんでした。

エセタ先生、あなたの知性は最期まで病に負けなかったのですね。先に旅立ったJerryさんも支え続けてくれたのでしょうか。今でもあなたの人懐っこい笑顔が臉に浮かびます。ご家族や友人や同僚や仲間の看護師にも同じように微笑みかけておられるのでしょうか。

さようならエセタ先生、いつかまた会えるときまで。それまで、あなたが遺してくださった大切なものを皆と一緒に守り育てます。 社会・経済学分野特任教授 多賀谷 昭



NUS学長への献花・写真の寄贈

## エセタ先生のご冥福をお祈りします

2001年に大学間協定が結ばれ、サモアと日本の子どものライフスタイルの比較研究で、エセタ先生と一緒に仕事をさせて頂きました。気さくで、温かく、仕事熱心で、新しいことに意欲的に取り組む素敵な方でした。

何度か日本に来られ本学との交流の要として尽力され、NUSの重要な地位に昇進され、これからという時に、とても残念です。エセタ先生のご冥福を心からお祈りするとともに、NUSとNCNとの交流が今後も進んでいくようにと願っています。

小児看護学分野教授 内田 雅代

## 追悼 Eseta Hope先生

2005年4月。初めて訪れたサモアでの緊張感を一掃するような、とびきりの笑顔で迎えてくれた。大きな身体に南国の華やかなプレタシを纏い、左耳にはブルメリア。「夜遊びする時には(独身者のように)右耳に挿すのよ」と悪戯っぽく笑った。

その後は互いにサモアと日本を行き来しつつ、何度も研究の話をした。駒ヶ根では大好きなソースカツ丼を頬張り、季節外れの大雪に大喜びしてはしゃいでいた。

突然の訃報は簡単には受け入れ難いものであった。程無くしてFulisia先生も旅立たれたとのこと。今ごろ天国で議論でもしているのだろうか…と思いを募らせている。

地域・在宅看護学分野講師 御子柴 裕子

## サモア国立大学と本学の絆であったEseta Hope学部長への感謝

本学はサモア国立大学(NUS)看護学科との教員および学生間の交流事業を実施しています。そのNUSと本学の重要な架け橋であったEseta Hope学部長が5月に永眠されました。本学は7月12日に学内で先生への感謝の会を開催し、その後の国際看護実習(渡航年)では先生のご遺影と献花をNUSとご遺族にお届けしました。留学生の来日年には明晰な学生を何代も送って下さり、渡航年には公私の隔てなくおもてなしを下さった先生。これからは豪華に飾られたご自宅のお庭でご家族を見守りつつ、互いの国を行き来して学ぶ私たちを見守ってくださることでしょう。 基礎看護学分野准教授 宮越 幸代



たくさんのご親族に囲まれた墓参

# 学生活動報告

## 鈴風祭を終えて

関島 文香さん (鈴風祭 実行委員長)



よさこいサークルの熱気あふれる演舞

第21回鈴風祭が9月10日、11日に行われました。無事天候にも恵まれ、多くの方々にご来場いただきました。自分自身、実行委員長という大役を務めきれぬか不安でいっぱいだったのですが、副実行委員長や実行委員、事務の方々、先輩・先生方など、多くの方々に助けをいただきながら、無事に終えることができました。大学生活でこのような貴重な機会をいただけたこと、みんなで学祭という行事に打ち込めたことをうれしく思います。

## 茶道サークル

澤島 里奈さん (茶道サークル長)

茶道サークルでは、月に2回、第1.3火曜日の15時から17時まで学生ホールにて活動をしています。外部から2人の講師をお呼びしてお稽古してもらっています。部員は10数名ほどで、初心者も多いので盆略という初歩的なお点前を繰り返し行なっています。わからないことや疑問を気軽に先生に聞くことのできるとても和やかな雰囲気なので、知識も増え非常に勉強になっています。今後新しいお点前を覚えたり、地域のお茶会に参加したりなど、活動の場を広げていきたいです。



お稽古する真剣なまなざし

## バレーボールサークル

白鳥 聖乃さん (バレーボールサークル長)



バレーボールでチームワークも向上!

こんにちは。バレーボールサークルでは毎週水曜日の18時から20時まで、初心者・経験者問わずみんなで楽しく活動しています。昨年度は希望者を集めて長野県大学・短大バレーボール交流大会に参加しました。他大学のバレーボールサークルの方々と対戦し、交流を深めることができました。今年度はテストや実習と重なり、参加することはできませんでしたが、今後地域の大会などがあれば参加していきたいと思います。

学生・教職員から

# 本の紹介

ここでは、本学の  
学生や教職員が、

それぞれ

好きな本を

皆さんに

紹介致します。



看護学部2年生  
高尾 幸矢さん

## 「脳にきく色 身体にきく色」

入倉 隆 著

私はこの本のタイトルに惹かれ脳や身体にきく色は何色なのか？興味を持ちました。この本の文章に「子供と大人では好みの色が違う」とありますが私は子供の頃から好きな色が同じです。感覚や感性を色で考えてみる良い機会になりました。私がこの本を読んで特に印象的だったところは記憶効果について癒しの空間を演出するには何色が良いのかなど普段の生活に応用できることを分かりやすく説明されているところです。これからの高齢化社会で見やすい色使いにするなどきめ細やかな配慮をする上でも役立つ一冊です。



老年看護学分野助手  
上原 章

## 「さかなクンの一魚一会 ～まいにち夢中な人生!～」

さかなクン 著

好きになったことには一直線！幼少期にはゴミ収集車と妖怪が大好きになり、小学生の頃にはタコに恋をして、中学校ではカブトガニとの壮絶な別れと繁殖大成功！何度となく失敗や苦労を経験しながらも、好きなことをひたむきに続ける大切さ、まさに『好きに勝るものなし!』気になる人物さかなクンの成長を楽しく知ることができました。私の子供も水族館が大好きなので、ギョギョっと読んでもらおうと思います。



就職支援員  
米窪 伸一郎

## 「いい音 いい音楽」 五味 康祐 著

40年近くクラシック音楽を楽しんでいる。凛としたトスカニーニや、深遠なフルトヴェングラーをよく聞いた。今年、念願のオーディオルームを手に入れた。今は峻厳なギュンターヴァントでブルックナーやブラームスを聞くのがお気に入りである。東京八重洲のブックセンターで作家 五味康祐 著『いい音 いい音楽』を偶然見つけた。毒舌でマニアックなところが実に痛快で、何度も読み返している。



# フォトかんごだい

平成28年6月～平成28年11月



6月1日  
平成28年度認定看護師教育課程開講式



6月11日 ふれあい花壇の定植



7月7日 挨拶運動



7月のキャンパス



7月30日 オープンキャンパス



8月1～12日  
4年生看護統合実習



9月10日  
平成27年度卒業生 集まれ!企画



9月10日  
県内市町村保健師採用合同説明会



9月21日  
2年生基礎看護実習Ⅱ  
企業による特別授業



9月26日～  
3年生看護専門領域別実習  
スタート 地域看護実習にて



10月21日 防災訓練



11月24日  
動物慰霊祭

# 大学の活動紹介：看護実践国際研究センター

## 看護職者の教育・支援プロジェクト

基礎看護学分野教授 小林 たつ子



看護職者の教育・支援プロジェクト研修会を「看護過程と現任教  
育—情報収集・アセスメント・実施・評価と記録—」と題して8月  
17日(水)13:30～16:30に本学の中講義室1で行いました。お盆直後  
でしたが病院から看護職32名、学内の教員24名の参加がありました。  
講師は本学看護管理を担当する金子さゆり教授(平成28年10月1日就  
任)でした。看護過程の基礎を分かりやすく丁寧にお話下さり、改め  
て基礎から学ぶことの大切さと臨床実践に活かしたい、アセスメン  
トの仕方が分かったなど反響があり有意義な研修会でした。

## 女性の健康づくりプロジェクト

母性・助産看護学分野准教授 阿部 正子

女性の健康づくりを積極的に応援するための  
情報発信を目的にセミナーを2回開催しました。  
第1回は「わたしの体はわたしが守る」という  
テーマで、14名が女性特有のガンについて熱  
心に聴講されました。第2回は「心と体を整える」  
というテーマで、29名が冷え性や更年期の養  
生法を学び、個別相談やヨガ体験後には生き生  
きとした表情で会場を後にされました。



## 在宅療養者と家族のための移行期看護プロジェクト

地域・在宅看護学分野教授 安田 貴恵子



当プロジェクトは、研究と実践の往還を目指して、看護実践の具  
体的な事象を読み解くことを大事にしています。具体的な内容の1つと  
して、看護職者と研究者が共同して学ぶ場を持ち、退院支援に関わる  
看護師支援に取り組んでいます。平成28年度は、大塚真理子先生(公  
立大学法人宮城大学看護学部教授)を講師として、専門職連携の教育  
と研究に関する研修会を開きました。最後の質疑応答では、学外者か  
ら多数の質問や意見が出され、大変有意義な研修となりました。

## 国際看護・災害看護活動研究部門

(International Research Center in Multicultural Nursing & Disaster Nursing: IRC)

健康・保健学分野教授 北山 秋雄

IRCは、開学時の教育目標のひとつである「国内外の関連機関との共同  
研究を推進して看護学の発展に貢献する」ために、様々な活動を展開して  
います。今年度は新たに、中国揚州大学との学術交流プロジェクトに取り  
組んでおり、8月には、医学部部長をはじめ3名の中国揚州大学一行が本  
学を訪問しました。さらに、2名の揚州大学看護学院大学院生が客員研究  
員として滞在し、基礎看護学、在宅看護学、老年看護学を中心に日本およ  
び長野県の保健医療看護の現状を学んでいます。来年、覚書または交流協  
定締結の方向で話し合いが進んでいます。”Challenge to Change !”



中国揚州大学一行の受講風景

# 同窓会(鈴風会)活動報告

鈴風会は、卒業生・修了生と母校、卒業生・修了生同士を繋ぐ架け橋となるべく、平成15年に設立されました。今年度は、10月8日に同窓会パーティーを開催し、会員の交流の場を設けることができました。また、岐阜県立看護大学同窓会役員の皆様をお迎えして交流会を開催し、双方の活動状況について情報交換を行いました。

今後も大学と連携を図りながら、会員にとって有意義な活動を進めていきたいと思っております。



鈴風会執行部 岐阜県立看護大学同窓会役員の皆様と



## INFORMATION



### 平成28年度 公開講座 退任記念講演

～看護ケアの意味するもの-治る力を引き出すために～

**講師** 小林 たつ子 (長野県看護大学 基礎看護学講座 教授)

**日時** 平成29年2月18日(土) 13:30～15:00 (受付開始13:00)

**会場** 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟3階)

### 平成28年度 長野県看護大学 研究集会

**日時** 平成29年3月17日(金) 9:00～16:00

**会場** 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟3階)ほか

**対象** 本学教職員、学生、看護職者ほか





## ■ 大学院公開特別講義

平成28年11月1日、「アメリカの医療事情」をテーマに、サミュエルメリット大学のアボット近藤房恵教授による特別講義が行われました。

近藤先生の授業に参加することでアメリカの医療制度の特徴やその現状について理解を深めることができました。病院や内服薬までもが保険でカバーされているかチェックしなければ高額な治療費がかかるアメリカに対し、保険証を持っていればどこの病院に駆け込んでも保険のきいた料金で治療を受けることのできる日本は素晴らしいと思いました。健康のアウトカム指標など、データに基づく医療の評価に対して看護の立場からどのようにアプローチしていくのか、常に検討していくことが大切であると改めて学ぶことができました。

井出 彩織さん(大学院看護学研究科博士前期課程1年)

アメリカの医療と日本の医療との違いについて知ることができ、アメリカでは看護師のケアの質が医療全体に関わってきており、質の評価として、診療報酬に反映してくることが分かりました。私が臨床にいた時に思っていたことは、忙しさや勤務時間の制限がある中で看護の質を提供するには、ある程度自己犠牲の上に成り立つものだということでした。そのため、今回の近藤先生の講義をきいて、診療報酬と結び付けて考えることが、驚きであり新鮮でした。日本ではなかなか難しい部分もあると感じますが、看護ケアの質とは何であるのかということを変更して考える時間となりました。

牛ノ浜 奈央さん(大学院看護学研究科博士前期課程1年)



アボット近藤教授の講義の様子



午後のディスカッションの様子

## ■ 大学院生の紹介



仕事と子育ての両立のため「長期履修制度」を利用し、通学しています。時間を作り課題を達成していく難しさを感じています。

1年目は、同期の仲間と講義を受けプレゼンテーションし学べることに喜びがありました。2年目は、職場の理解と家庭の協力と先生方に支えていただき、都内の医療機関でほぼ3ヶ月間 CNS 実習をしました。第一線で活躍する専門看護師のコンサルテーションを学び、直接ケアでは現象をアセスメントする難しさを学びました。3年目の今年は研究に取り組んでいます。

大蔵 真理さん(大学院看護学研究科博士前期課程3年)

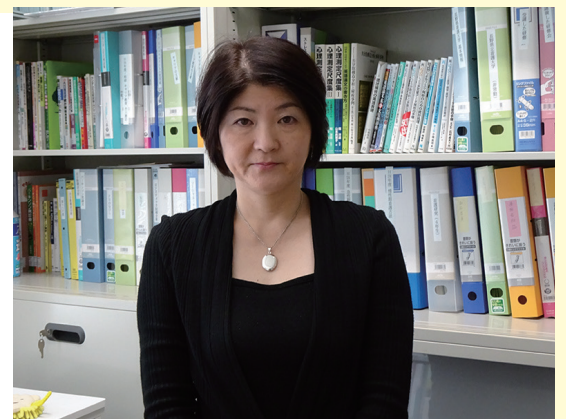
## 教員の研究紹介



基礎看護学分野教授 伊藤 祐紀子

看護実践に内在する患者と看護師の相互作用に関する質的研究に取り組んでいます。「看護の場にある身体」を捉えるため、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチをもとに「患者への気付きをもとに看護していくプロセス」を明らかにしました。常々経験的に看護師には、看護のための独特の触角、シックスセンスがあると感じています。それを事象として捉え明らかにしていきたいと考えています。また、共同研究では、「看護技術における行為の構造化」として血圧測定、ガウンチェンジ、リネンチェンジ、シャンプーに内包される身体性、順序性の特徴を捉えたり、早期体験実習に関する検討もしています。

慢性疾患とは、長期にわたり緩徐に進行する疾患です。生活習慣病やがん、難病などは代表的な慢性疾患であり、わが国は、その患者数が増加しています。慢性疾患は、疾病と上手につきあう方略を患者さん自身が身に付けること（セルフマネジメント）が重要になります。患者さんがセルフマネジメント方略を身に付けるためには、看護者からのどのような支援が有効なのか…これが私のリサーチ・クエスチョンです。今後も、慢性疾患患者さんが、疾患をもちながらも自分らしく生きていけるように、その看護方法を探求していきたいと考えています。



成人看護学分野教授 安東 由佳子

## 入試部会の活動紹介

本学は、平成11年度に博士前期（修士）課程（定員16名）を、平成13年度に博士後期（博士）課程（定員4名）を開学し、平成27年度までに博士前期課程修了145名、博士後期課程修了18名を輩出してきました。しかし、近年看護系大学院の急増、本学の立地条件等から、特に博士前期課程では平成23年度以降入学者が定員の50%以下の状態が続いてきました。既に本学の学部卒業生が1550名（その内、約65%が県内就職）に達していることから、大学院独自のパンフレットを作成し、県内病院の看護部長等を訪問して本学大学院の特長を紹介しています。大学院における高度の人材育成を通して、長野県内外の看護の質向上等により積極的に寄与したいと考えています。今後、海外の大学院生の受け入れを視野に入れて入試制度改革を進めていく予定です。

北山 秋雄(大学院入試部会長)



### 21世紀を担う看護のエキスパートへ 大学院への道

- 1 論文コースとCNS（専門看護師）コースを設置**  
日本看護協会の認定する専門看護師を目指す人に対して、専門看護師教育課程を設けています。  
（老年看護学分野・小児看護学分野・精神看護学分野）
- 2 就労しながらの修学をサポート【長期履修制度】【遠隔授業】**  
就労、育児や介護などで修学休業期間での履修が困難な場合に、前期課程は2年間の授業料で最長4年間、後期課程は3年間の授業料で最長6年間学ぶことができる制度を運用しています。また、自宅や職場からパソコンで授業に参加できます。
- 3 看護海外研修**  
University of San Francisco(USF)とSamuel Merritt University(SMU)を訪問し、そこで行われている授業や演習、現地実習などに参加し、教育方針や教育戦略などについて理解を深めることをねらいとしています。